

cumre REPORT

クムレレポート 2024



cumre クムレ

ともに育ち ともに生きる

クムレの支援觀 views of support

『自立 尊厳 ハビリテーション』

私たちクムレは、「自立・尊厳・ハビリテーション」の3つの支援觀を柱に、切れ目ない支援を実現します。



クムレ10の心得 rules

1. ただ仕事をこなすのではなく、“志”を持って働く。
2. 変化を恐れない勇気。挑む勇気。
3. この街を、もっと愛そう。
4. 団結力を身につけよう。
5. あなたの自信が、だれかの安心になる。
6. ハンディキャップのない街へ。
7. 圧倒的な“安心・安全”を。
8. 有言実行という、あたり前。
9. “うそ”、ゼロ宣言。
10. “クムレ”という誇り。

名前の由来 origin

法人創立55周年(2010年4月)を機に、創立者の座右の銘である「三共の心」をもとにして、法人の基本理念を「ともに育ち ともに生きる」とし、創設当時の思いに立ち返り、地域の人々や利用者、職員、ボランティアなど多くの人たちと支えあう地域共生社会を目指して「ともに生きていこう」という願いを込めました。「クムレ」という法人名は、ラテン語の cum(クム: ともに) と vivere (ヴィーウェレ: 生きる) を合わせた造語で、言語の源といわれるラテン語を用いることで、法人も原点回帰するという意味も含んでいます。

ごあいさつ

社会福祉法人クムレ
理事長 財前民男



猛威を振るった新型コロナウイルス感染症も2023年5月からは5類感染症扱いとなり、次第に市民生活も以前の活動を取り戻してきています。

クムレにおいても複数の事業所で集団感染が発生する中、ご利用者の日々の生活を守るために、行政の支援を受けながら、コロナとの戦いに法人一丸となって取り組みました。

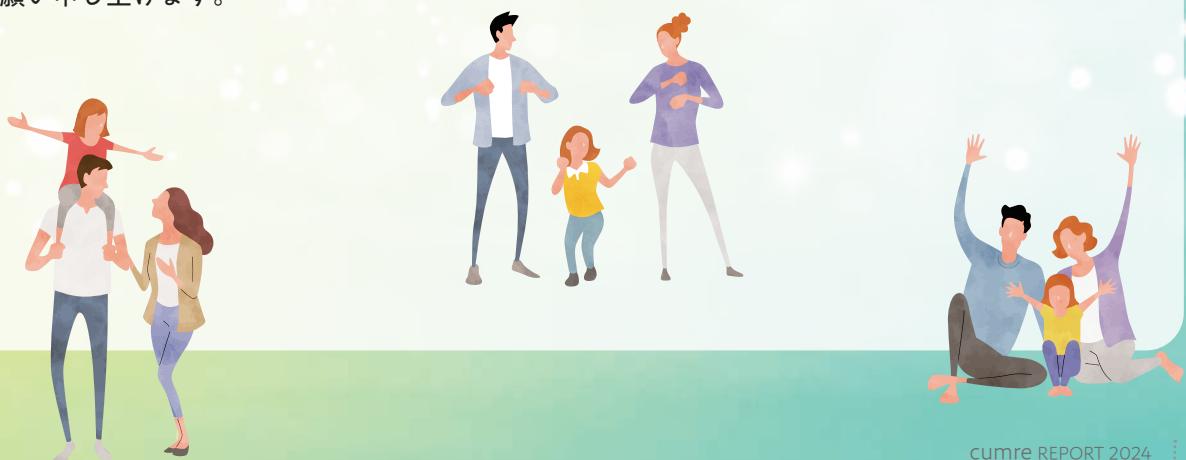
2023年度は、コロナで停滞していた地域福祉活動の再開や活性化に力を注ぐ一方で、新規事業として倉敷成人病センターと連携して「訪問看護ステーションクムレ」を開設、また水島小学校の学童保育「水島仲よしクラブ」の運営を受託し、活動をスタートしました。

結果として、クムレの事業は5エリア30事業所、職員数は500名を超え、多種多様な専門性を持つ職員が「ともに育ち ともに生きる」地域共生社会の実現に向け、チームプレイが出来る組織へと向かいつつあります。

2024年度からは、これまでの70年間にわたるクムレの歴史や実践を活かしながら、本格的な事業の再編成や改革に着手し、「ごちゃまぜの地域」を3年後に実現したいと考えています。

地域で生活する多様な人々が交わり、繋がり合い、助け合う、地域共生社会の実現に向けて走り始めました。日々の事業実践を通して描いた1000日後のゴールを目指し、模索しながら前進し続けます。

これからクムレの取り組みを見守っていただきながら、ご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

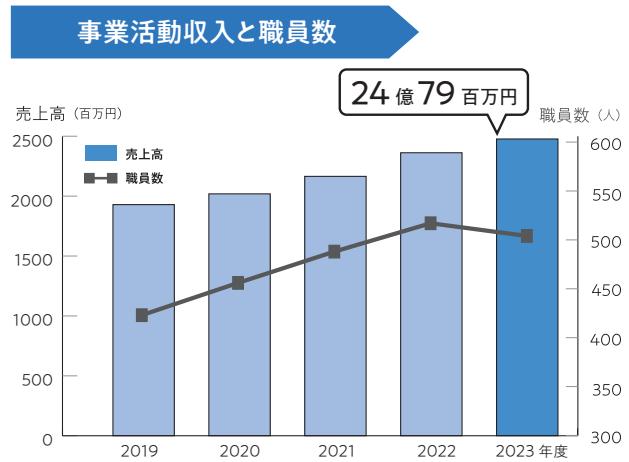
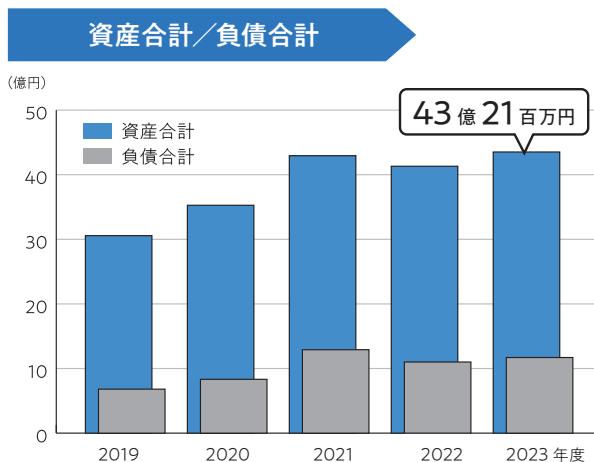
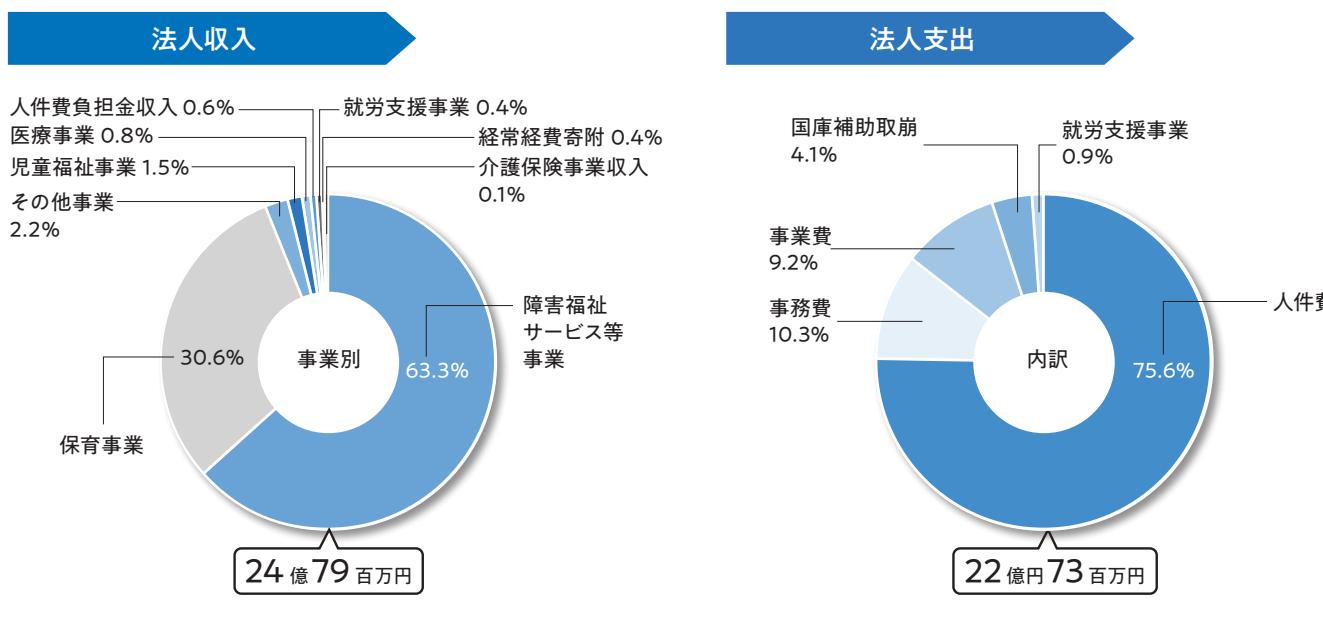


2023 年度 事業報告

- ▷ 4月に訪問看護ステーションクムレの開設、及び放課後児童健全育成事業水島仲よしクラブの運営受託を開始し、サービス活動収益は 24 億円を超え、昨年度に引き続き過去最高収益を更新した。
- ▷ 各事業の収支改善に取り組み、支出の見直しに着手した結果、サービス活動増減差額大幅増を達成した。
- ▷ 各エリアの重点テーマに沿って「自立・尊厳・ハビリ」の支援観に基づき様々な事業を実施し、また地域との協働もコロナ前に近い水準を目指して順次活動を再開した。

内閣府の令和 6 年 3 月の月例経済報告の総論では、「景気は、このところ足踏みもみられるが、緩やかに回復している。」とあり、当法人においてもサービス活動収益合計額は 24 億円を突破し、今年度も過去最高収益を達成しました。また、ICT も活用しながら収支改善にも着手し、サービス活動費用は昨年度比約 36 百万円減となり、最終的にサービス活動増減差額は約 2 億円となりました。

昨年度の多機能型重度グループホームおうちだの開設に続き、今年度は訪問看護ステーションクムレを開設し、児童発達支援の多様なニーズに応えられるよう体制強化を図りました。また昨年度に引き続き、感染症対策に留意しながら、コロナ前の平時の状態に戻していくよう、地域との協働にも積極的に取り組みました。



2023 年度 決算報告書

(単位：円)

貸借対照表

資産の部	
科目	決算額
流動資産	1,242,021,098
固定資産	3,079,532,908
(基本財産)	2,254,073,292
(その他固定資産)	825,459,616
資産の部合計	4,321,554,006

独立監査人の監査報告 2024 年 5 月 31 日

監事の監査報告 2024 年 6 月 5 日

【経営指標】 参考指標① 実績 備考
 借入金比率 16.8% 15.9% 総資産に対する借入金残高の合計の割合
 債務償還年数 5.2 年 2.1 年 事業活動資金収支差額に対する期末借入金残高の割合

※参考指標①：「社会福祉法人の現況報告書等の集約結果（2023 年度版）」
 （独立行政法人福祉医療機構）

負債の部	
科目	決算額
流動負債	317,388,825
固定負債	845,217,213
負債の部合計	1,162,606,038
純資産の部	
基本金	166,111,041
国庫補助積立金	584,836,054
その他の積立金	428,500,000
次期繰越活動増減差額	1,979,500,873
(うち当期活動増減差額)	195,282,621
純資産の部合計	3,158,947,968
負債及び純資産の部合計	4,321,554,006

資金収支計算書及び事業活動計算書

資金収支計算書	
勘定科目	決算額
事業活動による収支	
事業活動収入計 (1)	2,484,345,981
事業活動支出計 (2)	2,149,959,659
(人件費支出) <人件費率 67.7%>※	1,681,744,814
(その他支出)	468,214,845
事業活動資金収支差額 (3) = (1) - (2)	334,386,322
に施設による収支	
施設整備等収入計 (4)	62,517,580
施設整備等支出計 (5)	132,582,820
施設整備等資金収支差額 (6) = (4) - (5)	△ 70,065,240
に他の活動による収支	
その他の活動収入計 (7)	39,961,089
その他の活動支出計 (8)	202,097,644
その他の活動資金収支差額 (9) = (7) - (8)	△ 162,136,555
当期資金収支差額合計 (10) = (3) + (6) + (9)	102,184,527
前期末支払資金残高 (11)	919,629,410
当期末支払資金残高 (10) + (11)	1,021,813,937

※人件費支出 / 事業活動収入計による比率

【経営指標】 参考指標② 保育事業 障害福祉（児） 障害福祉（者）
 人件費率 67.3% 57.1% 76.1% 62.5%
 経費率 25.0% 17.5% 12.1% 20.6%

※参考指標②：「2022 年度（令和 4 年度）社会福祉法人の経営状況について」（独立行政法人福祉医療機構）

事業活動計算書	
勘定科目	決算額
活動増減の部	
サービス活動収益計 (1)	2,461,941,947
サービス活動費用計 (2)	2,257,081,097
サービス活動増減差額 (3) = (1) - (2)	204,860,850
増活サの外ビ部	
サービス活動外収益計 (4)	22,404,034
サービス活動外費用計 (5)	5,900,417
サービス活動外増減差額 (6) = (4) - (5)	16,503,617
経常増減差額 (7) = (3) + (6)	221,364,467
増特減別の部	
特別収益計 (8)	2,308,180
特別費用計 (9)	28,390,026
特別増減差額 (10) = (8) - (9)	△ 26,081,846
当期活動増減差額 (11) = (7) + (10)	195,282,621
増繰減越差額の部	
前期繰越活動増減差額 (12)	1,939,218,252
当期末繰越活動増減差額 (13) = (11) + (12)	2,134,500,873
基本金取崩額 (14)	0
その他の積立金取崩額 (15)	0
その他の積立金積立額 (16)	155,000,000
次期繰越活動増減差額 (13) + (14) + (15) - (16)	1,979,500,873

栗坂エリア

重 点 テ ー マ

重度障がい児者の生活を支える体制づくり

主な実施項目

- 訪問看護ステーションクムレの開設
- POSTステーションの開設
- 幼児期～児童期～学齢期～成人期の切れ目ない支援

成 果 と 振り返り

①訪問看護事業開始、初年度契約件数 63 件

重度障がい児の在宅支援を目的として、「訪問看護ステーションクムレ」を開設しました。

契約件数は 63 件となりましたが、待機件数は 80 件で、広範囲の移動に時間をしてしまい、訪問件数を伸ばせませんでした。来年度は栗坂と水島の 2 拠点体制とし、移動時間を短縮して待機児の解消を図り、より多くの方にニーズに合ったサービス提供ができるよう努めます。

②セラピストによる POST ステーション開設、法人内派遣 45 件

各事業所に所属する PT (理学療法士)・OT (作業療法士)・ST (言語聴覚士) 計 10 名で構成する横断的組織「POST ステーション」を開設しました。より質の高い支援の実現を目的とし、法人内各事業所から派遣要請を受け、45 件の訪問を実施し、個別支援計画策定にも役立てました。

定例業務として 2 週間に 1 回会議を開催し、各担当が抱えるケースの相談や情報共有を行いました。

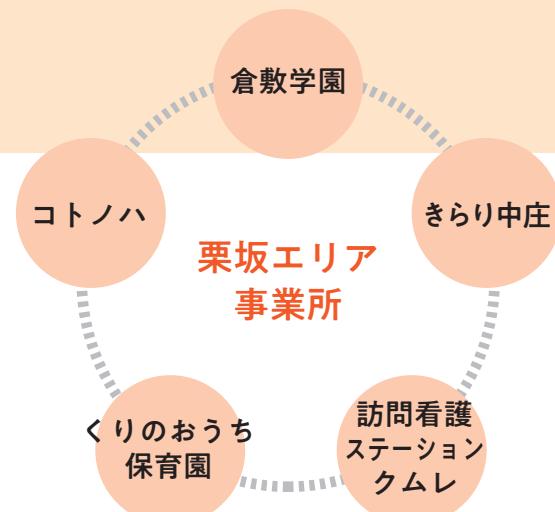
各事業所の支援員や保育士等から、専門的な視点でのアドバイスを受けられ、支援の質が高められると好評で、また専門職同士の情報共有を定期的に行うことで専門職間でも事業所を飛び越えた交流が生まれています。

③幼児期→児童期移行支援 2 名、学齢期→成人期移行支援 4 名

幼児期から成人期までの切れ目ない支援体制の構築を図るべく、チームアプローチで取り組みました。

「ケアコラボ」という記録システムを活用し、日々の生活の様子や本人が希望する暮らし等の情報を中心に集め、ご家族はもちろん、関係する全てのスタッフに共有しました。

来年度以降も支援の連続性を念頭に、「自立・尊厳・ハビリ」の支援観に基づき、各年齢期に合った適切な支援を実施していきます。



岡山エリア

重点テーマ

障がいや年齢に関わらず、子どもから高齢者までが生きがいや役割を持って過ごせる地域

主な実施項目

- ◎多機能の支援体制と人財育成
- ◎自立・尊厳・ハビリの利用者支援の充実
- ◎地域とのつながり～地域共生社会に向けた取り組み

成果と振り返り

①多機能だからできる幅広い支援と多様性を認め合うチーム支援

ショートステイではニーズの高かった児童の受入を開始し、45名と契約しました。

地域の高齢者・障がい者・学生の雇用を行い、多様性を認め合うチーム支援体制を構築した他、2交替と3交替を選択可能なシフトへ変更し、働きやすさの改善にも努めました。

また、あらゆる災害を想定した避難訓練を12回実施し、全職員が救急法、感染症、権利擁護等の研修を受講し、緊急時にもご利用者が安心して生活できるような体制の強化に取り組みました。

②自立に向けた様々な取り組み

児童発達支援・放課後等デイサービスでは、お仕事プロジェクトと題して作品を制作し、マルシェ等で販売を行い、その対価で絵本やおもちゃを購入しました。

地域高齢者の支援を目的として、生活介護では古紙回収に取り組み、貯まつたポイントをクオカードに交換して対価を得ました。

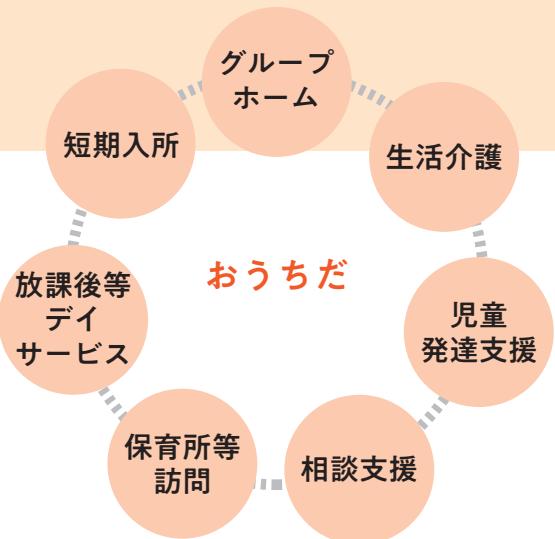
生活面での自立を図るため、グループホームでは洗濯の外注を廃止し、ご利用者自らが洗濯を行えるようにする等、家事を自分で行えるよう支援する体制を整備しました。

③延べ34回、134名が参加した様々な公益活動の開催と地域と協働した取り組みの展開

多目的ホールを活用し、地域の親子クラブとの交流、パンダ広場、おうちだクラブ等、地域の親子に向けた公益活動を開催しました。

きびきびマルシェを毎月1回、街づくり隊会議を4回、フレイル予防教室を6回開催した他、地域行事のまちかど博物館へ参加する等、地域と協働した取り組みを行いました。

令和8年4月からは岡山市からの移管により桃丘こども園の開設が決まることを受け、来年度以降はより一層地域のニーズに合った社会資源の創設を目指していきます。



暮らす働くエリア

重点テーマ

重い障がいがあっても本人が生活者として自立できる地域環境づくり

主な実施項目

- 利用者アセスメントの強化
- アート活動プロジェクトの立ち上げ
- エリア内事業所が共同発信できるツールの考案

成果と振り返り

①地域移行2名、よりご利用者の生活に沿った勤務体系に変更

地域移行を念頭に職員の再教育を実施し、それぞれのご利用者が希望する暮らしの実現を目指したアセスメントを関係機関等も交えながら丁寧に行いました。

共同生活援助事業所クムレでは、職員の勤務時間を見直し、よりご利用者の生活に沿う勤務とすることで、特に生活面でのアセスメントの質の向上を図りました。

②エリア内全8事業所でインスタグラムの開設、生活介護パンフレットの刷新

エリア内の全8事業所でインスタグラムを開設しました。開設にあたっては講師による指導も受け、プライバシーに配慮しながら、各事業所での日頃の活動の様子や魅力の発信をタイムリーに実施しました。

また、これまで事業所ごとにそれぞれで作成していた生活介護の4事業所（あしたば、コトノハ、わきあいあい、おうちだ）の共通パンフレットを制作し、それぞれの事業所の特徴が一目でわかる仕様に変更しました。新規ご利用者やそのご家族等から好評をいただいております。

③東京の展示会で入選3名

昨年度クラシスのご利用者のアート作品が東京にて展示され売上を得ることができたことを受け、厚労省の芸術文化活動からもヒントを得て、あしたばにてアート活動プロジェクトを立ち上げました。

任意団体 DESIGN GOALs プロジェクト代表を指導者・アドバイザーとしてお迎えし、本プロジェクトのコーディネートやワークショップの講師を依頼しました。

東京の展示会に作品を出したところ、見事3名が入選を受賞しました。法人設立70周年記念グッズ等の制作も視野に、継続的に活動を行っていきます。



クロスエリア

重点テーマ

障がいのあるなしに関わらない子どもの居場所

主な実施項目

- 訪問支援の強化
- 母子支援多機能化PTの取り組み
- にじいろエリアとの協働

成果と振り返り

①保育所等訪問支援事業再開し訪問回数20回、居宅訪問型児童発達支援事業開始

アウトリーチ型の支援として、9月に保育所等訪問事業を児童発達支援センタークムレで再開し、訪問回数20回を達成しました。

居宅訪問型児童発達支援事業の指定を受け、新たに開始しました。保育推進室や訪問看護事業所等へ事業の説明を行い、まずは周知に努めました。

このような取り組みを通じ、重い障がいや医療的ケアを要する子の状況を多くの関係機関に知っていただき、その子らしく過ごせる環境づくりを地域へ推進していきます。



②母子支援多機能化プロジェクトを5回実施

クムレが目指す共生社会の一つに母子支援施設の在り方があり、社会的ニーズの高い親子関係の再構築をテーマにプロジェクトを開催しました。

大学教授、助産院院長、他社会福祉法人施設長、保護者、職員で母子支援施設の在り方や鶴心寮の現状と課題、多機能化した母子生活支援施設等について意見交換を行い、母子支援における「自立・尊厳・ハビリ」の展開についての道筋を明確にしていきました。

③にじいろエリアとの協働

クムレが目指すインクルーシブ保育の実現に向け、両エリアの職員で地域公益ミーティングを2か月に1回、クロスにじいろ会議を月に1回開催し、職員間現場交流や合同勉強会等を行いました。

障がいの有無に捉われず、子ども軸での育ちを学び、経験する機会を作ることができました。来年度はより実践的な視点で会を設定して取り組んでいきます。

にじいろエリア

重点テーマ

すべての子どもが ともに成長できる保育環境

主な実施項目

- 全ての親子に対する生まれる前からの継続した支援や子育て環境の提供
- 共に考え協力し合える専門職集団としての体制の構築



成果と振り返り

① Welcome ベビー day18名、すこやか教室 101名

生まれる前からの支援として Welcome ベビー day を 18 名に実施しました。産後は、すこやか教室という親子教室へつなぎ、離乳食、わらべうた、親子ふれあい遊び等、親子の愛着や育児に繋がる取り組みを実施し、101名が利用されました。

また、既存の制度では対応できないような様々な福祉課題を抱える親子に対し、在宅支援やサロン、一時預かり等を提案・利用に繋げ、切れ目なく安心して子育てができる環境づくりに努めました。

さらに、育児・家事支援の取り組みとして、産後ヘルパー延べ 40 回、にじいろヘルパー延べ 23 回を実施しました。

他にも、近隣の親子クラブや子育てサロンへの出前講座を行った他、地域ボランティアの皆様とこれらの事業を行い、水島地域全体ですべての親子を支えていけるような環境づくりに取り組みました。



② クムレにこにこ教室 50 件利用、発達相談件数延べ 125 回

子どもの発達等にご不安のある親子に対して、1歳半健診後のフォロー教室として、発達支援事業所と保育園が共同してクムレにこにこ教室を開催し、50 件の利用がありました。

配慮の必要な子どもへの支援の理解を深めるため、法人内専門職 (PT・OT・ST) による見立てを行う、全事業所参加のケース会議を 3 回実施しました。

子どもの発達に関する相談について、3歳未満児は延べ 59 回、3歳以上児は延べ 66 回対応しました。

また、医療的なケアを必要とする園児に対して、医療機関 2 か所、訪問看護、法人内専門職と連携ながら支援を実施しました。

このような活動を継続し、来年度以降もインクルーシブ保育の実現を目指して、専門的な知識・経験を醸成しながら、すべての親子が安心して成長できるような支援に取り組んでいきます。

データで見る公益活動

にこにこ教室 子どもの発達や育児に不安のある親子を対象に気軽にご相談いただける場	わたげの集い 地域の方、各種委員、学校関係者が集まり、子どもの居場所や育ちを考える会 全6回実施 参加人数 108名	わたげ 地域の子どもの見守りや居場所の提供 利用人数 20名	沖ベース 地域の子どもの見守りや居場所の提供 利用人数 183名
学用品・部活用品おゆずり会 地域の方から学用品等のご寄付をいただき、必要なご家庭にお届けし、地域の皆さまのお気持ちで子どもたちの健やかな成長を応援する取り組み 利用件数約10組	いきいきボランティア(水島) 水島の事業所の活動やイベント等にボランティアでご参加いただく取り組み 延べ530名	パクパクランチの会 毎月1回小さくら乳児保育園で提供している初期食から完了食までの離乳食の試食会、不定期で歯科医師による歯磨き指導も同時実施 全12回実施	音楽ひろば 毎月1回ひろばにじいろで毎月のテーマに応じて楽器遊びや表現遊び、エプロンシアター等を開催する取り組み 全12回実施
おうちだクラブ 障がい認定されていない児童を対象に、ソーシャルスキルトレーニングや遊びを通じて社会性を高める場 全16回実施 参加人数 72名	ぱんだひろば 発達が気になる幼児を対象に、親子遊びの活動を提供する場 全6回実施 参加人数 38名	カラフルひろば 在宅の医療的ケア児や重症心身障がい児を対象に、訪問看護事業所と協働で親子遊びの活動を提供する場 全12回実施 参加人数 24名	防災セミナー&マルシェ ご利用者の作品販売、救急法の講習会、学生ボランティアによるゲーム、家族会バザー等を実施 参加人数 50名
まちかど博物館 故・坪井画伯の作品展示会と弦楽団アンサンブルヌーヴォーによる演奏会を実施 参加人数 110名	きびきびマルシェ ご利用者の作品販売や家族会バザーを実施  全10回実施	フレイル予防教室 地域の作業療法士による講話と介護予防体操の実施 全6回実施 参加人数 84名	どんぐりひろば 発達や育児に不安のある親子が集う場 参加人数 421名
マロンくらぶ 障がい認定されていない児童を対象に、ソーシャルスキルトレーニングや遊びを通じて社会性を高める場 参加人数 66名	みらいっぽ 不登校児を対象として必要な支援を行う場 利用人数 124名	オレンジカフェ 認知症の方とご家族、地域の方が集い、体操やヨガ等を実施し、カフェでランチも楽しめる交流の場 参加人数 232名	さくらんぼの会 障がいのある子どものきょうだいが集まる場 利用人数 145名
ひまわりの会 倉敷学園卒園児と保護者が集い、様々な活動や遊びの機会を提供する場 利用人数 86名	いきいきボランティア(倉敷) 倉敷の事業所の活動やイベント等にボランティアでご参加いただく取り組み 延べ207名	やまでっこひだまりカフェ 毎月1回山手ふれあいセンターにて設定テーマに沿った子ども食堂を実施 参加児童 744名	こられえ上東 小学生と大学生、クラシス利用者、地域の方々等が交流できる居場所、毎月1回飲食等のイベントを開催 全12回実施 参加人数 314名
庄小学校除草作業 庄小学校にてご利用者と一緒に除草作業を実施  全3回実施	フードシェアリング 川崎医療福祉大学と連携し、くりのおうちカフェを中心にフードロスへの取組として惣菜販売を実施 全2回実施 販売食数 365食		クムレでは様々な公益活動を展開しています。ここでは2023年度に実施した活動の一部をご紹介します。

いきいきボランティア募集

クムレの各事業所で、子どもたちや地域の方と関わっていただいたら、施設の清掃や環境整備等を行ってくださるボランティアを募集しています！年齢等は一切問いません！得意なこと、好きなことを活かしながら、子どもたちやご利用者、地域の方とのふれあいの中で一緒にいきいき過ごしませんか？

ボランティア活動をしてくださった方には、1時間100ポイント（1日上限200ポイント）の「クムレいきいきポイント」を付与いたします！たまつたポイントをクムレの商品（焼き菓子、野菜、洗車チケット、雑貨等）と交換できますよ♪

ボランティアご登録希望の方は各事業所までお問い合わせください。

相談・リスクマネジメント

データで見る相談件数

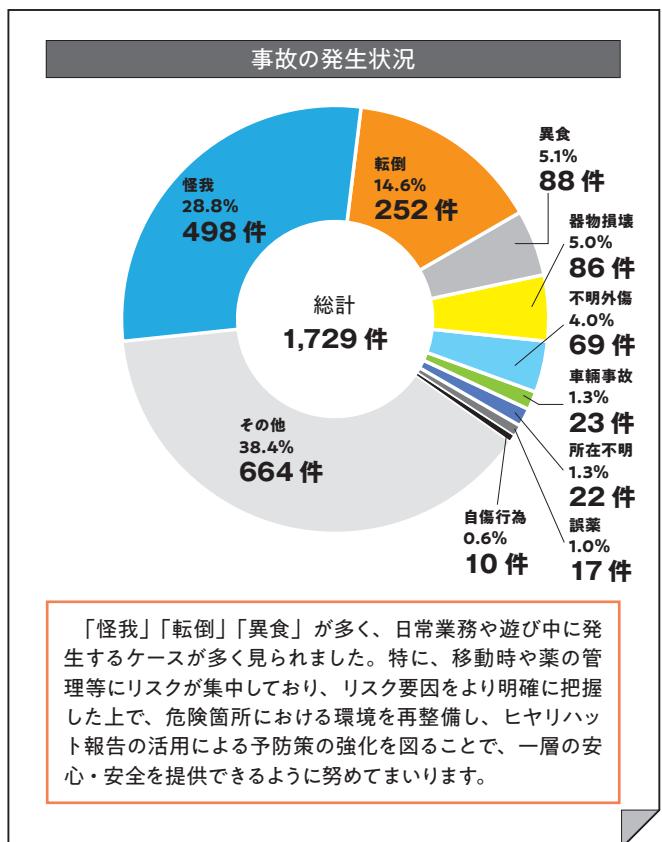
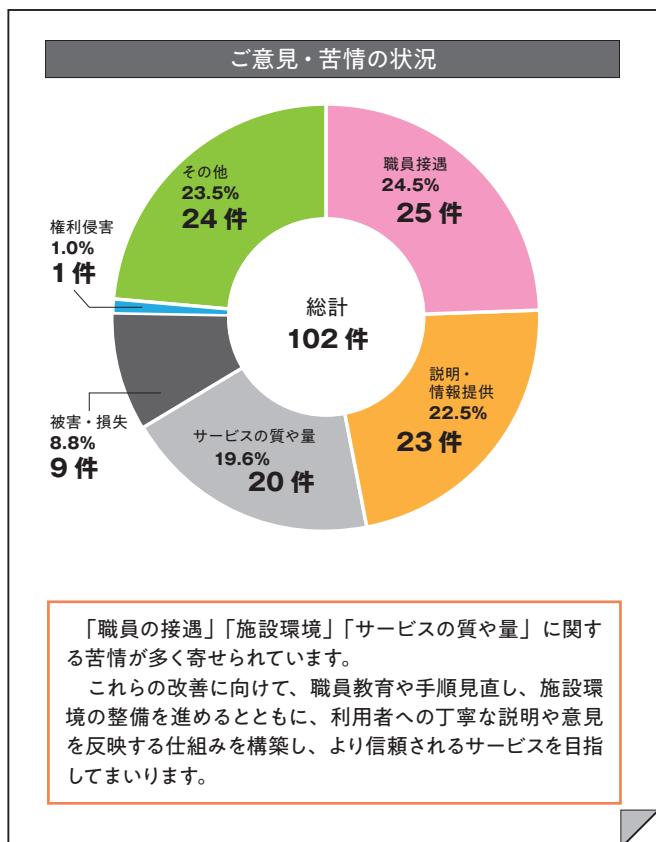
ご本人やご家族、地域の「気になる」や「困った」をキャッチして支援に繋ぐ、安心して生活し続けられるネットワーク作りを行う、そんな相談をデータでご紹介します！

児童発達支援センター 倉敷学園 (相談事業) 120 件	特定指定相談支援事業所・ 特定障がい指定相談事業所 クムレとて (相談事業) 126 件	倉敷発達障がい者 支援センター (基本相談) 56 件	倉敷地域生活 支援センター (相談事業) 2,562 件
児童家庭支援センター クムレ 3,799 件	多機能型重度 グループホームおうちだ 70 件	小さくら地域子育て 支援センター 747 件	DV 被害者等相談・ 自立支援充実事業 119 件
子ども何でも相談総合ダイヤル 26 件	児童発達支援センタークムレ (相談事業) 80 件	LINE 相談 (基本相談) 5 件	居住支援相談 195 件

● 0歳～18歳の発達についての相談を受け付けています。相談内容に応じて、専門職（社会福祉士・保育士・言語聴覚士・作業療法士等）が担当します。

リスクマネジメント委員会

当法人では、風通しの良い組織（風土）作りと圧倒的な安心・安全を実現するためにリスクマネジメント委員会を設置しています。リスクマネジメント委員会では、毎月各事業所の事故報告書（ヒヤリハット・意見・要望・苦情含む）をもとに本人要因、職員要因、環境要因などから原因分析と防止策の検討、昨年度の同時期の傾向と比較して予防策の提案を職員に周知しています。



委員会等・実践発表

感染症対策委員会

感染症対策に関する取り組みについて

新型コロナウイルス感染症の分類が5類へ移行したことにより、企業内感染症では感染症の取り扱いや対応方針を見直し、「感染症BCP」および「感染症マニュアル」を改訂いたしました。各事業所での感染症対策をさらに強化するための取り組みを進めています。

法人内では、「感染症対策本部」を設置し、感染症発生時に迅速かつ適切な対応ができるよう、情報共有を兼ねた会議を昨年度は3回実施しました。感染症に関する研修も年2回開催しており、職員全体の知識向上とスキルの習得を目指しています。

感染症研修内容

研修では、以下のような具体的なテーマを取り上げました。

- ◎ 感染症マニュアルおよび感染症BCPの確認
- ◎ 防護服、マスク、手袋の着脱手技
- ◎ 吐物処理の実技指導
- ◎ 感染症発生時対応と行政報告の手順
- ◎ 正しい手洗い・うがいの技術
- ◎ 消毒液の用途と保管方法
- ◎ 感染症予防対策全般

今後とも職員が感染症対策に対する意識を高め、利用者の皆様の安全と健康を守るために、引き続き取り組みを行っていきます。

衛生委員会

衛生委員会の活動について

衛生委員会では、職員の健康維持・増進と、働きやすい職場環境の実現を目指して活動しています。2023年度も、入社1~2年の正規職員を対象としたボーリング大会の開催等、多様な取り組みで職員同士の交流促進や健康管理支援に取り組みました。

メンタルヘルスについて

職員のメンタルヘルスをサポートするため、セルフケアに関する研修を開催しました。この研修はセット形式と動画配信の2つの方法で実施され、延べ174名の職員が参加しました。心の健康を考えるための具体的な方法を学びました。

衛生委員会では、職員の健康や働きやすい職場づくりに貢献できるよう、様々な活動をこれからも継続してまいります。

POSTステーション

POSTステーションの活動について

POSTステーションは、法人内のPT(理学療法士)・OT(作業療法士)・ST(言語聴覚士)の職員が知識や情報を共有し合う場です。これにより、相互に支援の質の向上を図るとともに、事業所間のスムーズな連携を実現しています。また、相談しやすい体制を構築し、利用児者やご家族、職員に対して専門技術を提供しています。

取り組んだ内容について

- ◎ リハビリ職員が講師を務める研修会の定期開催
- ◎ リハビリ職員間の定例ミーティング
- ◎ Instagramを活用した情報発信 等

POSTステーションでは、法人内外での知識共有と技術向上を支える役割を果たすべく、職員間の連携を強化し、利用児者や保護者の方々への支援をさらに充実させていきます。また、地域社会への貢献を念頭に置き、引き続き専門的な情報の発信や連携活動を推進していきます。

2023年度実践発表会について

玉島文化センターにて、昨年度に引き続き集合形式でクムレの実践発表会を開催しました。

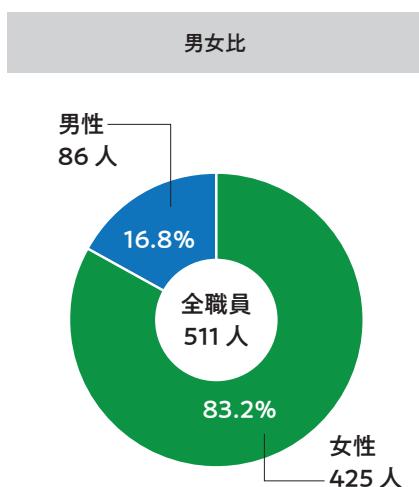
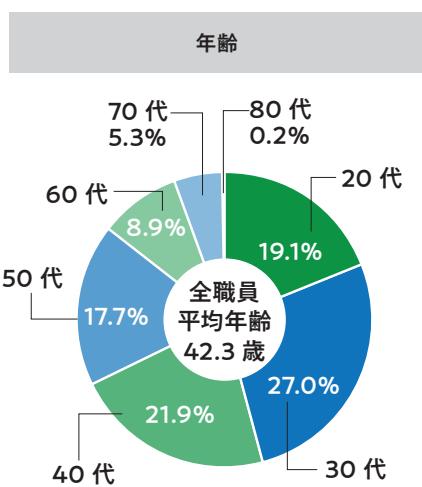
今年度は、法人内事業所間の協働や多職種連携により地域共生社会実現を目指し、地域においてその人らしく自立して生きていける環境を整える「地域包括型事業への転換」を共通のテーマとし、9チームがそれぞれ実践した取り組みについて発表を行いました。

今年度の理事長賞には「児童期から成人期までの切れ目ない支援と地域共生社会の取り組み」が、審査員賞には「チームで取り組む多職種連携」が選ばされました。

ご出席いただいた医師や大学教授からいただいたご助言を参考に、すべての事業所がそれぞれの長所を活かしながら、自分事として近い未来のあるべき姿を描き、その道筋をこれからもワンチームで実践していきたいと思います。



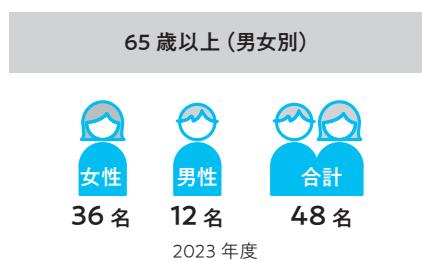
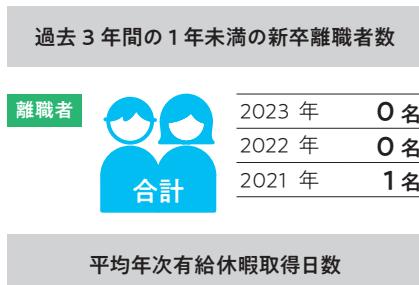
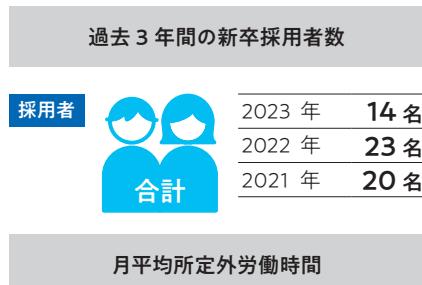
職員について



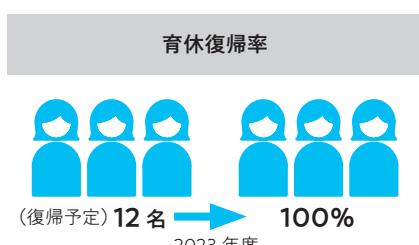
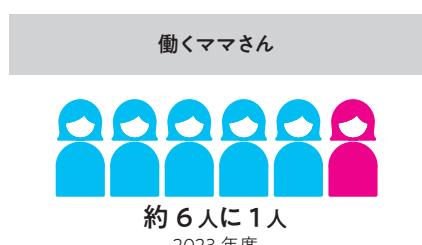
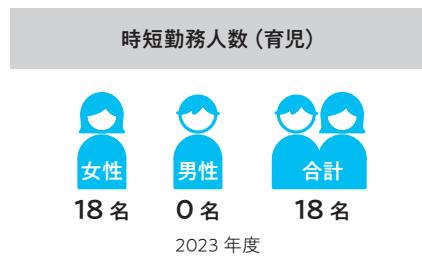
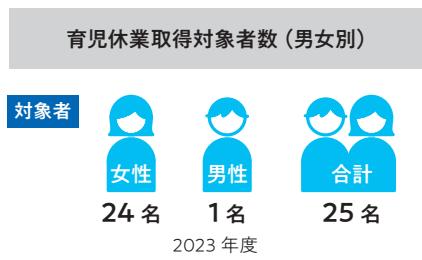
職員の国家資格所有者

資格種別	保有人数
保育士	199
幼稚園教諭 1種・2種	154
介護福祉士	47
看護師・准看護師	35
管理栄養士	19
理学療法士	4
作業療法士	6
言語聴覚士	2
社会福祉士	41
精神保健福祉士	9
公認心理師	3

2024年3月31日現在



新卒採用者から60歳以上の方まで、幅広い年代の方が男女を問わず活躍できる環境づくりを心がけています。また、業務の効率化等を実施し、時間外労働削減に取り組んでおり、ワークライフバランスに配慮しています。



産休・育休を取りやすい環境で、3人目、4人目を出産される職員も！小学3年生までは時短勤務が可能で、小学3年生以下の子の育児をしながら働くママさんは約6人に1人と、仕事と育児の両立ができます。サービス管理責任者や主任クラスの職員も制度を活用しており、キャリアアップを目指しながら子育てもできる環境が整っています。

事業所地図と一覧

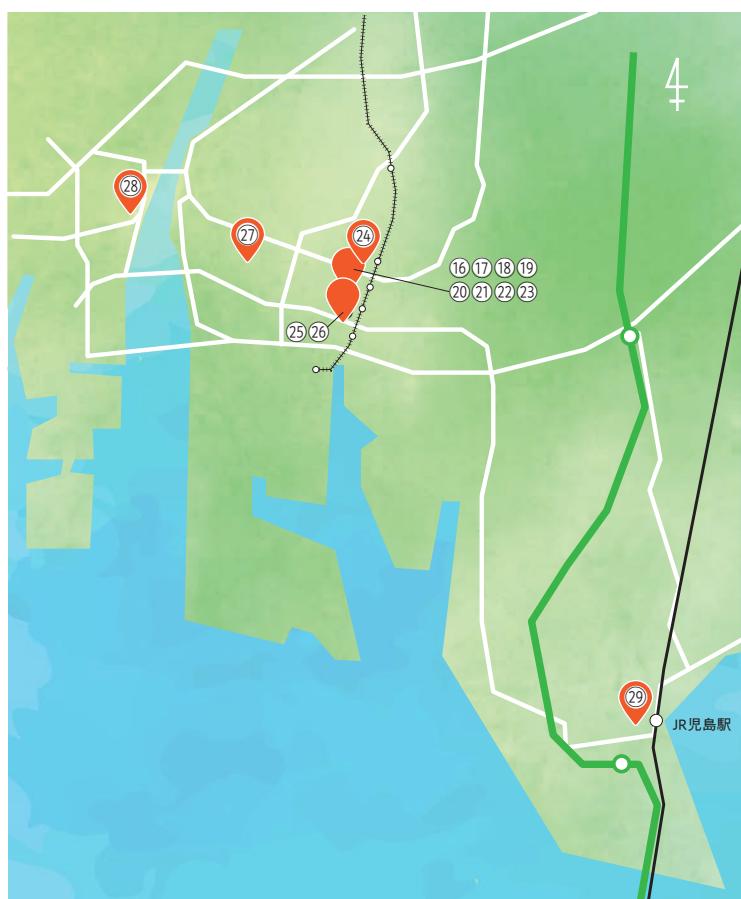
倉敷・岡山・総社エリア



■	児童発達支援事業
■	障がい者支援事業
■	児童発達支援事業 & 障がい者支援事業
■	保育等
■	相談等

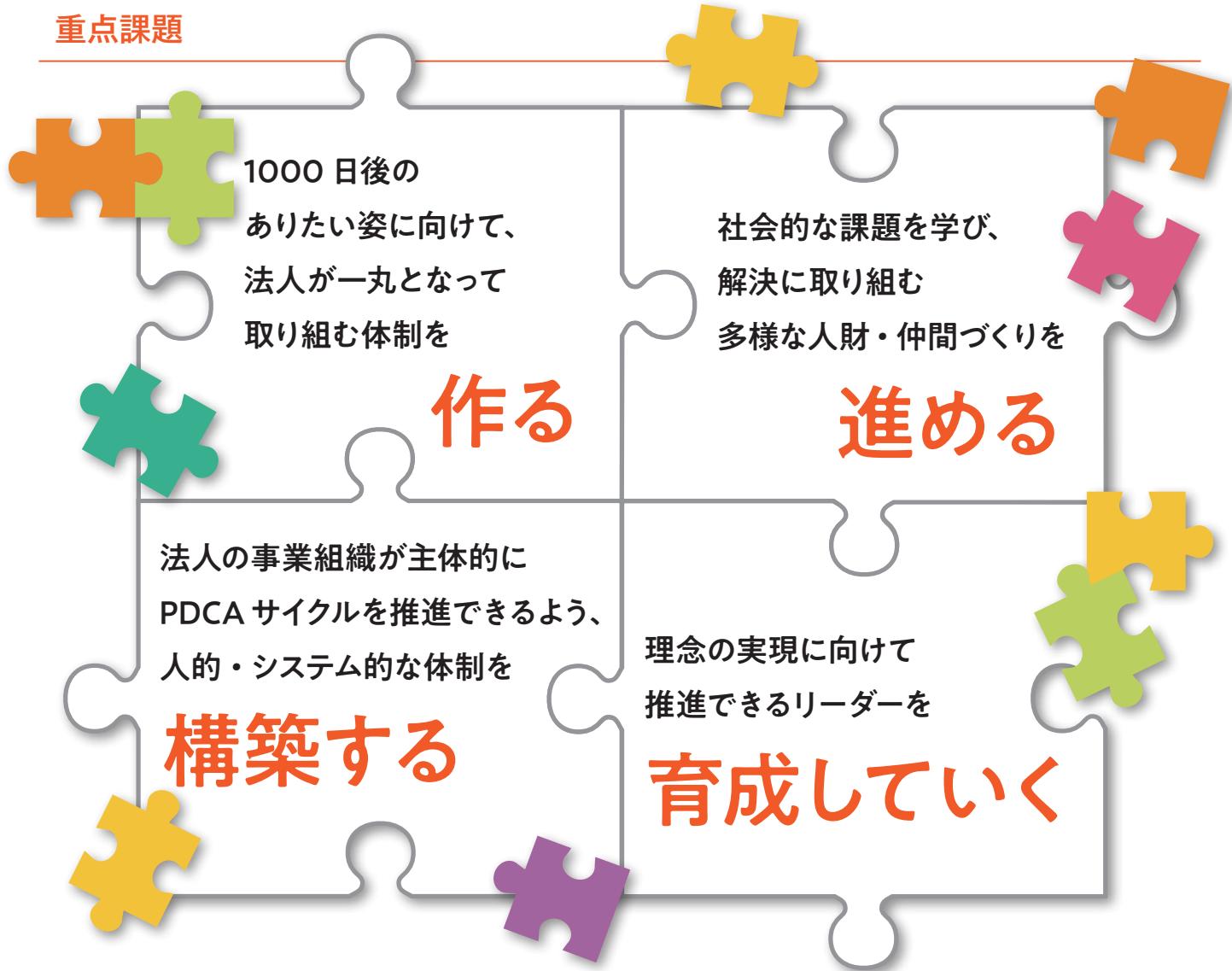
- ① 児童発達支援センター倉敷学園 ■
- ② 児童発達支援事業所きらり中庄 ■
- ③ 多機能型事業所コトノハ ■
- ④ 居宅介護事業所なないろ ■
- ⑤ 居住支援センタークムレ ■
- ⑥ 企業主導型保育所くりのうち保育園 ■
- ⑦ 障がい者支援施設あしたば ■
- ⑧ 生活介護事業所わきあいあい ■
- ⑨ 就労継続支援 B型クラス ■
- ⑩ 共同生活援助事業所クムレ ■
- ⑪ 倉敷地域生活支援センター ■
- ⑫ 倉敷発達障がい者支援センター ■
- ⑬ 児童発達支援事業所きらり倉敷 ■
- ⑭ 多機能型重度グループホームおうちだ ■
- ⑮ 就労継続支援 B型やさいの畠クムレ ■

水島・玉島・児島エリア



- ⑯ 児童発達支援センタークムレ ■
- ⑰ 指定特定相談支援事業所・
指定障がい児相談支援事業所クムレにてとて ■
- ⑯ 児童家庭支援センタークムレ ■
- ⑯ 児童発達支援事業所きらり水島 ■
- ⑯ 幼保連携型認定こども園小ざくら保育園 ■
- ⑯ 小ざくら乳児保育園 ■
- ⑯ さくらんぼ小規模保育園 ■
- ⑯ 小ざくら地域子育て支援センター ■
- ⑯ 放課後児童クラブ水島仲よしクラブ ■
- ⑯ 小ざくら小規模保育園 ■
- ⑯ 訪問看護ステーションクムレ ■
- ⑯ 小ざくら第二保育園 ■
- ⑯ 児童発達支援事業所きらり玉島 ■
- ⑯ 児童発達支援事業所きらり児島 ■

2024 年度事業計画



2030 年に向けたクムレのグランドデザインと 1000 日後のありたい姿

2024 年 6 月に厚生労働省から公表された 2023 年人口動態統計月報年計（概数）によりますと、出生数は約 72.7 万人と 8 年連続で過去最低を記録し、また合計特殊出生率は東京で 0.99 となる等、こちらも過去最低の 1.20（岡山 1.32、前年比▲ 0.07）を記録しました。婚姻数も戦後初めて 50 万組を割り込み、これらのことからも全国的に少子化が益々進行していることが顕著に表れており、地域社会の脆弱化が今後一層顕在化していくことが予想されます。

そのような状況下において、私たちの「ともに育ち ともに生きる」の理念の実現に向け、グランドデザイン 2035 からより具体的な道筋を描くために、2030 年に向けたクムレのグランドデザインを描き、そこに向かって 3 か年ご

とにバージョンアップを行いながら成長できるよう、倉敷・水島・岡山の各 3 地域の 1000 日後のありたい姿を描きました。共通のテーマは「ごちゃまぜ」で、障がいの有無や特性、置かれている環境等に関わらず、すべての人がその地域でその人らしく生きられるような地域づくりを目指し、「自立・尊厳・ハビリテーション」の支援観を胸に刻んで、理念の実現に向けた法人プロジェクトとして推進していきます。

また、事業部門ごとの事業実施体制を構築することで経営品質向上に向けた組織マネジメント力の強化を図る他、管理業務の標準化・DX 化を推進する等し、法人組織強化を図ります。



私たちは、より良い地域を形成するためのコンセプトとして「ごちゃまぜ」という考え方を描きました。この考え方には「多様な人々が交わり、つながり合い、助け合うことで、孤独や孤立を少しでも減らしたい」「ひとりひとりが地域の中で役割を持ちながら暮らしていくようにしたい」という願いが込められています。住民同士の挨拶や何気ない会話がお互いを気に掛け合う関係へ、そして困ったときにはお互いが「助けて」と言える関係が広がって、誰もが今より少しでも安心して暮らせる地域へ。こうした日常のつながりは、災害時にも大きな力を発揮し、地域の助け合いや連携が命や暮らしを守る基盤になるとも考えています。

しかし正直なところ、これまでの私たちの活動では「どうやってそれを実現するのか」という点を深く掘り下げるには至りませんでした。そのため、2024年度からは「土台作り」を始めていく決意のもと活動を開始しました。従来の福祉が、社会福祉制度の枠組みの中で「施設運営」や「サービス提供」を重視してきたのに対し、これからは地域に合った「まちづくり」に取り組む必要があると考えています。

「地域共生のまちづくり」とは何か。その答えを見つけるために、まずは同じビジョンを共有することを目指しこの絵を製作しました。製作して分かったことは「人」の大切さでした。地域で暮らす住民は勿論のこと、人と人や地域資源をつなげる「人」の必要性です。まずは私たちクムレの職員がそれを目指します。そしてぜひ皆さんにもこの絵を通じて「自分の居場所」や「地域の中での役割」を考えるきっかけを見つけていただければ幸いです。

私たちだけではこの取り組みを実現することはできないかもしれません。しかし、多くの方々と共に力を合わせることで、少しずつでも地域共生の未来に近づいていければと願っています。ぜひ、私たちと一緒に第一歩を踏み出してみませんか？

後援会の募集

クムレ後援会とは

クムレは「ともに育ち、ともに生きる」を理念に、地域共生社会の実現に向けて様々な公益活動を推進しております。その活動を後押しする目的として、後援会が発足いたしました。

多くの皆様のあたたかいご支援に支えられ、クムレの地域共生社会の実現に向けた後援会のご入会及び会費にご協力いただけますよう心からお願い申し上げます。

●令和5年度後援会 寄付者(社)数

会員種別	先数
個人会員	813名
法人会員	28社
合計	841先様

●主な寄付用途

子育て支援	金額
育児支援教室(すこやか教室 ウエルカムベビー)の広報活動	30,000
にじいろカフェ ボランティア交流会	17,000
たいけんひろば ふあんふあーれ 地域交流イベント	22,000
家庭支援ネットワーク 勉強会 交流会	30,000
施設設備充実 環境整備	金額
小さくら授乳スペースの増設	182,000
介護用リフトの導入	400,000
栗坂農地開発 農業エリア拡充	974,000
ICT機器 ソフトウェアの充実	2,000,000
地域共生社会への取り組み	金額
オレンジカフェの開催	48,000
上東商店(地域開放)	35,000
やまでっ子ひだまりカフェ(子ども食堂)	50,000
どんぐりひろば マロンクラブ 子育て発達支援会合等	99,000
体験教室 ひだまりカフェ(不登校児体験学習 子ども食堂)	76,000
権利擁護団体(NPO 法人はれるや)研修会費用等	450,000
新しいサービスへの取り組み	金額
障がい者相談 SNS(LINE)相談事業の展開	1,616,000
その他分野	金額
いきいきポイント 地域交流 災害備蓄品購入等	1,015,000
合計	7,044,000

寄付の募集

クムレでは、「ともに育ち ともに生きる」を理念に、各事業を実施しており、私たちの理念や取り組みにご賛同いただける個人・団体の皆さまからのご寄付を募集しています。

各事業や事業所へのご寄付をご指定いただくことができ、いただきましたご寄付は大切に利用させていただいております。(令和5年度寄付額8,673,000円)ご賛同いただけます方は是非各事業所までお問い合わせください。
よろしくお願いします。

法人沿革

1955年 4月	小さくら保育園 開園
1956年 3月	社会福祉法人光明会設立
1974年 10月	小さくら夜間保育園 開園
1975年 4月	小さくら保育園移転 小さくら乳児保育園 開園 （現在地の同一敷地内に4施設移転） 小さくら園（心身障がい児通園事業）開園 小さくら夜間保育園移転
1978年 4月	倉敷学園 開園
1981年 10月	小さくら夜間保育園 厚生省認可第一号
1990年 10月	小さくら地域保育センター 開設（現 小さくら地域子育て支援センター）
1993年 4月	あしたば 開設（現 障がい者支援施設あしたば）
2000年 10月	知的障がい者グループホーム 上東ホーム 開設（現 共同生活援助 クムレ上東）
2001年 4月	倉敷地域生活支援センター 開設
2004年 4月	障がい児デイサービス事業所 T・L・S・C きらり倉敷 開設 (現 児童発達支援事業所 きらり倉敷)
2004年 8月	障がい児デイサービス事業所 T・L・S・C きらり児島 開設 (現 児童発達支援事業所 きらり児島)
2004年 8月	ケアホーム 上東さくらホーム 開設（現 共同生活援助 クムレ上東さくら）
2005年 4月	ケアホーム 上東かえでホーム 開設（現 共同生活援助 クムレ上東かえで）
2006年 4月	指定管理者制度により 倉敷市鶴心寮 を受託
2007年 4月	生活介護事業所コトノハ 開設
2007年 10月	倉敷発達障がい者支援センター 開設
2008年 1月	障がい児デイサービス事業所 T・L・S・C きらり玉島 開設 (現 児童発達支援事業所 きらり玉島)
2008年 4月	就労継続支援B型デイセンターあしたば 開設（現 就労継続支援 B型クラス）
2009年 3月	知的障がい児通園施設 倉敷学園 移転（現 児童発達支援センター 倉敷学園）
2009年 4月	児童発達支援事業所 きらり中庄 開設
2010年 4月	社会福祉法人クムレに法人名変更 児童家庭支援センター クムレ 開設
2010年 9月	居宅介護事業所 なないろ 開設
2011年 11月	児童発達支援事業所 きらり水島 開設
2012年 4月	訪問介護事業所 なないろ 開設 クムレとて 開設
2012年 6月	通所介護事業所 クムレ 開設
2012年 12月	居宅介護支援事業所 クムレ庄新町 開設
2013年 4月	共同生活援助・介護事業所クムレ 栗坂 開設（現 共同生活援助事業所 クムレ 栗坂）
2013年 6月	児童発達支援センター クムレ 開設
2013年 11月	就労継続支援B型 やさい畠クムレ 開設
2015年 4月	小さくら保育園 幼保連携型認定こども園に移行 ひろばにじいろ 開設
2015年 12月	ひろば栗の家（おうち） 開設
2016年 4月	小さくら小規模保育園 開設
2017年 1月	放課後等デイサービスなないろ 開設
2017年 3月	通所介護支援事業所クムレ 廃止 居宅介護支援事業所クムレ庄新町 廃止
2017年 4月	生活介護事業所 わきあいあい 開設 児童発達支援事業所 きらり児島 移転 放課後等デイサービス コトノハ（旧放課後等デイサービスなないろ）に名称変更
2017年 6月	居宅介護事業所 なないろ 移転
2018年 4月	DV 被害者等相談・自立支援充実事業 受託
2018年 7月	住居確保要配慮者居住支援法人 指定
2019年 2月	児童発達支援センター 倉敷学園 相談事業所 開設
2019年 8月	企業主導型保育所 くりのおうち保育園 開園
2020年 4月	小さくら第二保育園（旧小さくら夜間保育園）に名称変更・移転（連島町鶴新田）
2020年 11月	小さくら乳児保育園 建替
2021年 4月	さくらんぼ小規模保育園 開園
2022年 4月	つどいのおうちわたげ 開設 多機能型重度グループホーム おうちだ 開設
2023年 4月	訪問看護ステーションクムレ 開設 放課後児童健全育成事業水島仲よしクラブ 運営受託



1955年 4月 小さくら保育園 開園



1978年 4月 倉敷学園 開園



1993年 4月 あしたば開設（現 障がい者支援施設あしたば）



2010年4月 光明会からクムレへ法人名を変更



2022年 4月 多機能型重度グループホーム おうちだ開設

※事業所名は現在の名称



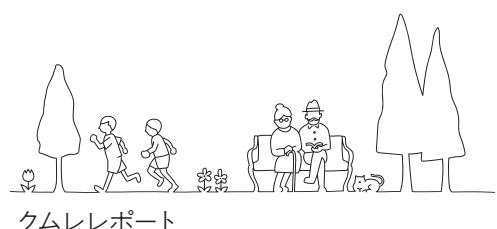
法人 HP



採用 HP



Instagram



発行日 2024年8月吉日

発行人 財前 民男

社会福祉法人クムレ

〒701-0113 岡山県倉敷市栗坂8

TEL.086-464-0007 / FAX.086-464-0072

HP <https://cumre.or.jp>

表紙写真：タイトルは「えがお」！

小さくら保育園の園児からとびっきりの笑顔をいただきました！
2024年度もご利用者やご家族、地域の皆さん、職員が毎日笑顔にあふれ、
「ともに育ち ともに生きる」が実感できますようにと願いを込めて…♪